



教室のご案内

バードウォッチング（自由参加）

7月27日、8月24日（日）

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤

川の生き物教室（定員20人）

8月3日（日）午前9時～11時

ネイチャーセンター（要申込）

※帽子着用、水に濡れても良い服装

草の間をフワフワ

ーキイトトンボー

小川のほとりや湿地を歩いていると、細身で鮮やかな黄色が印象的なトンボに出会います。イトトンボ科の「キイトトンボ」です。

大きさは3～4cm、胸と複眼は黄緑色です。雄の腹部はあざやかなレモンイエローで、先に黒い斑があります。草の間を低く飛んで、雌を探したり餌を求めたりします。雌は雄より一回り大きく、腹部が黄色い「黄色型」と、黄緑味の強い「緑色型」の2つのタイプが存在します。交尾のため雄と雌が連結する様子も見

られ、運が良いと写真のようなハートマークになった様子も見られます。草の間をゆっくりと漂うように飛ぶ様子は独特で愛らしいですが、他のイトトンボを襲って食べてしまうなど、凶暴な性格の持ち主でもあります。

初夏から夏にかけては、森の中を歩いていると、イトトンボの仲間やカワトンボ、ヤンマの仲間など多くの種類のトンボが歓迎してくれます。貴重なトンボたちです。見かけたら採集せず、そっと優しく観察してください。

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



在りし日の土岐川の鉄橋
(駄知鉄道名勝絵葉書より)



四七災害で流された土岐川の鉄橋
(広報とき 47.7豪雨増大号より)

第15回 災害の記憶を伝え遺すために

近年、梅雨時の豪雨災害が毎年のように起きていますが、53年前の昭和47年7月にも大きな豪雨災害がありました。通称「四七災害」。土岐市では、土岐川に架かる東濃鉄道駄知線の鉄橋を始めとして九つの橋が流失し、道路や農地、家屋なども甚大な被害を受けました。東濃鉄道は鉄橋の復旧を断念し、駄知線は2年後に廃線となってしまいました。

駄知線は駄知鉄道として、地場産業である陶磁器の原料と製品を運搬する目的で、大正11年に開業した路線でした。通勤・通学など利用し、さまざまな思い出をお持ちの方

も多いと思います。市民に親しまれた駄知線も、今では記録にしかその姿は残っていません。現在、当館では古い写真や資料の収集を進めています。大きな災害や駄知線に関する写真・資料はわずかしかなかった写真でも、今では失われてしまったものごとの貴重な記憶となり得ます。自然災害への備えを未来の人々へ「教訓」として伝え遺すために、災害に関する人々の記憶を収集し保存していくことも博物館の使命の一つです。古い写真や資料をお持ちの方はぜひご一報ください。